

**平成30年度
福島県地域創生総合支援事業
（サポート事業）
県南地方実績報告書**

福島県県南地方振興局

■ 一般枠

- ① 夢を Hug くむ街、しらかわ（白河商工会議所青年部）〔白河市〕
- ② しらかわにぎわいプロジェクト（しらかわにぎわいプロジェクト実行委員会）〔白河市〕
- ③ ふくしま県南地元企業説明会（ふくしま県南地元企業説明会実行委員会）〔白河市〕
- ④ 白河戊辰戦争 150 年を契機とした歴史のまち魅力発信事業
（白河戊辰 150 周年記念事業実行委員会）〔白河市〕
- ⑤ 風評払拭！ふくしまで農活（表郷いいもの開発協議会）〔白河市〕
- ⑥ 白河ふれあいマーケット（（公財）白河観光物産協会）〔白河市〕
- ⑦ まるごと白河 2018（まるごと白河実行委員会）〔白河市〕
- ⑧ しらかわ地域文化継承事業（白河まつり振興会）〔白河市〕
- ⑨ ご当地アイドルによる県南地域活性化事業（矢吹町バンド連合会）〔矢吹町〕
- ⑩ 次世代によるローカルメディア創造事業（次世代によるローカルメディア創造事業実行委員会）〔白河市〕
- ⑪ ふくしまの「人と地域」の魅力発信事業（（特非）表郷ボランティアネットワーク）〔白河市〕
- ⑫ 街なかカルチャー教室 未来の担い手育成事業（街なかカルチャー教室実行委員会）〔白河市〕
- ⑬ 農商工連携事業「しらかわ応援団プロジェクト」（夢みなみ農業協同組合青年連盟しらかわ地区）〔白河市〕
- ⑭ 全国から「しらかわ」に集まれ！元気なジュニアゴルファー育成プロジェクト
（全日本小学生ゴルフトーナメント in しらかわ実行委員会）〔矢吹町〕
- ⑮ うつくしま絆づくりプログラム（うつくしま絆づくりプログラム実行委員会）〔矢吹町〕
- ⑯ 横浜住民との双方向交流による産業活性化プロジェクト（矢祭町農業法人会）〔矢祭町〕（過疎・中山間）
- ⑰ やまつり清流の里ゆったり・ほっこり里山時間プロジェクト
（やまつり清流の里協議会）〔矢祭町〕（過疎・中山間）
- ⑱ さめがわ・de・トワイライト（さめがわ・de・マルシェ実行委員会）〔鮫川村〕（過疎・中山間）

- 集落等活性化枠
 - ⑱ 小高ふれあいの森公園づくり（埴町小高区）[埴町]
 - ⑳ 矢塚地区交流推進事業（（一社）矢塚明日香塾）[埴町]

- 健康枠
 - ㉑ 西郷村健康増進事業（西郷村）[西郷村]
 - ㉒ お年寄り元気健康まちづくり事業（矢吹町）[矢吹町]
 - ㉓ はなわ健康づくり応援事業（埴町）[埴町]
 - ㉔ 強く逞しくなろう！生きるとは食べること！
（（公社）白河青年会議所強く逞しいひとづくり委員会）[白河市]
 - ㉕ 「しらかわの里山」魅力発信事業（しらかわ里山ネット）[白河市]
 - ㉖ 健康体操・食育&コミュニケーション教室（（一社）あんだんて）[白河市]

- 市町村枠
 - ㉗ 総合結婚支援復興事業（「ふれあいの場」創出事業実行委員会）[県南9市町村]
 - ㉘ しらかわ風評払拭・地域産業復興促進事業（白河市）[白河市]
 - ㉙ 西郷村復興推進環境整備事業～デマンド交通実証運行調査～（西郷村）[西郷村]
 - ㉚ 風評被害払拭に係る西郷村空家等対策計画策定事業（西郷村）[西郷村]
 - ㉛ 復興元気発信！やぶき体育祭り開催事業（矢吹町）[矢吹町]
 - ㉜ わくわく棚倉城食フェスタ（棚倉町）[棚倉町]
 - ㉝ 里山と星空の魅力パワーアップ事業（鮫川村）[鮫川村]

(1)夢を Hug くむ街、しらかわ

一般枠

新規

【実施団体名】 白河商工会議所青年部（白河市）

事業の目的

地域の賑わい創出と交流人口の拡大を図るため、県南地方の地域資源を活かし、白河市内外の子どもからお年寄りまで、多様な世代が参加、交流するイベントを開催した。また、小中高生による街のシンボルづくりを行い、白河駅前イルミネーションに合わせて展示することで、子どもの目を通した白河市の魅力をPRした。

＜夏祭り 2018-しらかわスマイル-の様子＞



事業の内容

事業内容：

- 夏祭り 2018-しらかわスマイル-@白河駅前イベント広場（8/4・5）来場者：2万人
 - ・市民参加による伝統・文化芸術等の発表
 - ・県南地方の食のPR
 - ・僕らの課外授業シンボル制作ワークショップ
- 僕らの課外授業～創ろう！僕らの街のシンボルを～
 - ・県南地方の小中高生による企画会議（7/24）
 - ・シンボル制作（66人参加）（8/19）
 - ・白河駅前イルミネーションに合わせてシンボル発表・展示（11/30～1/31）

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費	-	-	4,932	4,600
（補助対象）	-	-	(4,926)	
補助金	-	-	2,558	2,300

＜シンボル制作に励む子どもたち＞



事業の成果・効果

- 「夏祭り 2018-しらかわスマイル-」は、約2万人の来場者があり、目標を順調に達成した。また、地域住民もステージイベントに参加するなど、地域と一体となったイベントになった。
- 「僕らの課外授業～創ろう！僕らの街のシンボルを～」は、年間を通じた事業内容で子どもたちの創造力を養うとともに、完成したシンボルが白河駅前を彩り、賑わい創出に貢献した。

今後の展開等

- 白河市内の中心市街地との連携や回遊についての検討。
- 行政機関や教育機関の協力や連携。
- 継続して事業を実施するための資金確保。

(2)しらかわにぎわいプロジェクト

一般枠

新規

【実施団体名】 しらかわにぎわいプロジェクト（白河市）

事業の目的

独立店舗では企業が困難な人（起業家）に対し、セミナーや四季ごとに開催されるイベントに併せたチャレンジショップの開催などを通じて創業支援を行い、中心市街地の空き店舗での独立開業の促進と、街なかの賑わい創出を図った。

事業の内容

事業内容：

- チャレンジショップを組み合わせたイベント〈6/3、8/4、12/1～25、2/11〉
 - ・出店者：のべ84店舗 ・来場者：3,947人
- 創業支援のための勉強会やセミナー〈6/1、8/1、2/15〉
 - ・参加者：44人
- 空き店舗ツアーの開催〈10/16〉
 - ・見学先：市内9店舗 ・参加者4名
- マイタウン白河 HP や SNS（LINE@）による起業情報の発信

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	—	—	608 (591)	1,548
補助金	—	—	392	765

＜ チャレンジショップの様子 ＞



＜ 起業家勉強会の様子 ＞



事業の成果・効果

- イベント開催により、会場のマイタウン白河の来場者数が前年より10%増加した。
- 創業者・起業家へ講師によるセミナーや勉強会を開催することで、独立や開業のきっかけづくりにつながった。
- セミナー・マルシェ参加者対象のツアーを行い、空き店舗の将来的な解消のきっかけとした。

今後の展開等

- 収益事業として個人教室の開催を目指す起業家を対象に含めた事業展開。具体的には、起業家の実践の場として、カルチャー教室の開催。

(3)ふくしま県南地元企業説明会

一般枠

新規

【実施団体名】 ふくしま県南地元企業説明会実行委員会（白河市）

事業の目的

就職希望の高校生のみならず、進学予定の高校生も対象とした企業説明会を開催することで、就職後のミスマッチの解消、進学前における地元企業の理解促進、Uターン就職者の増加及び人口減少の抑制を図った。

事業の内容

事業内容：

- 進学校を含む県南地域の高校生を対象とした企業説明会
 - ・日時：平成31年2月22日（金）9:30～16:30
 - ・場所：棚倉町総合体育館
 - ・参加生徒数：412人（県南地域の高校5校）
 - ・参加企業数：67社（県南地域に拠点がある求人企業）

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費	—	—	1,885	1,882
（補助対象）	—	—	(1,780)	—
補助金	—	—	1,046	1,046

< 説明会会場の様子 >



< 企業の説明に熱心に聞き入る生徒 >



事業の成果・効果

- 目標としていた参加生徒数400名を超える生徒が参加。アンケート結果からも「大変役に立つ」・「役に立つ」という回答が98.2%に上るなど、地元企業の理解促進につながった。
- 参加企業からも83.1%が満足したとの回答があり、将来的な労働力確保による生産性向上が期待できる。
- 参加企業の地元商工会・商工会議所への加入促進にもつながった。

今後の展開等

- 企業説明だけでなく、「しごと体験」や「先輩社員との対話」など、アウトカムを重視した内容の充実化。

（4）白河戊辰戦争 150 年を契機とした歴史のまち魅力発信事業

一般枠

新規

【実施団体名】 白河戊辰 150 周年記念事業実行委員会（白河市）

事業の目的

戊辰戦争から 150 年という節目の年に、白河の歴史を再認識し、観光資源を磨き上げるため、県内外の戊辰戦争ゆかりの地と連携したイベントやツアー、講演会を実施することで、白河市の魅力を広く PR し、更なる交流人口の増加を図った。

事業の内容

事業内容：

- 戊辰の風 花の雲@小峰城城山公園 〈4/7〉
 - ・ RAG FAIR による復興応援ソング「花は咲く」の合唱
 - ・ 来場者：5,000 人
- 歴史再発見バスツアー@白河市、南会津地方 〈8/8〉
- 白河戊辰ラーメン合戦@小峰城城山公園 〈10/26～28〉
 - ・ 全国のラーメン店 8 店が戊辰戦争時の東西両軍に分かれて杯数を競った
 - ・ 来場者：50,000 人（東軍 7,595 杯/西軍 6,730 杯/合計 14,325 杯）
- まだまだ知られていない戊辰戦争講話会 〈8/4, 9/8, 10/13, 11/10, 12/8〉
 - ・ 県内各地の戊辰戦争に関する講話会 ・ 参加者：延べ 125 人

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	—	—	16,266	604
補助金	—	—	4,886	402

＜ 白河戊辰ラーメン合戦＞



＜ まだまだ知られていない戊辰戦争講話会



事業の成果・効果

- 「戊辰の風 花の雲」では 5,000 人の来場、「白河戊辰ラーメン合戦」では 50,000 人が来場するなど、戊辰戦争 150 年の節目の年に、白河の歴史や観光資源を広く PR できた。
- ツアーや講演会では、白河市をはじめ、県内の歴史について再認識する機会となった。

今後の展開等

- 今後の PR につなげるための SNS の活用。
- 戊辰戦争 150 年を節目とした、次年度以降の展開の模索。

(5)風評払拭！ふくしまで農活

一般枠

継続2年目

【実施団体名】 表郷いいもの開発協議会（白河市）

事業の目的

首都圏在住者を対象に、「農活」と題した農業講座（座学）で本県の現状や作物の作り方等を指導するとともに、白河市表郷地区を訪れ植付けから収穫まで農作業を実施した。また、収穫した農産物をメンバーが自ら首都圏で販売することで、いまだ根強い県産農産物の風評払拭と安全性をPRした。

事業の内容

事業内容：

- 野菜収穫・交流会@白河〈6/23〉 参加者 11人
- 野菜販売マルシェ@東京〈7/6・7〉 客数 124人
- 稲刈り・野菜収穫・交流会@白河〈10/14〉 参加者 11人
- 野菜販売マルシェ@東京〈12/7・8〉 客数 86人
- 閉校式（意見交換）@東京〈2/12〉 参加者 8人

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	—	552	500	500
補助金	—	296	280	280

＜ 白河市での農業体験 ＞



＜ 東京での意見交換会 ＞



事業の成果・効果

- 12人の首都圏在住者が参加し、白河市の農場で農業体験を通じて、楽しみながら農作物の安全性を実感してもらった。
- 2回開催したマルシェでは、延べ210名が県産農産物を購入し、風評の払拭と安全性のPRをすることができた。

今後の展開等

- マルシェでのPRを起点に、継続して購入いただける顧客の確保。
- 福島県に訪れた農作業体験者を通じた農産物のPR。

(6)白河ふれあいマーケット

一般枠

継続2年目

【実施団体名】 公益財団法人白河観光物産協会（白河市）

事業の目的

県南地域で収穫された農産物の販売や、県南ブランドの地場産品を使用した飲食物を提供する「白河ふれあいマーケット」を白河駅前イベント広場で開催することで、生産者、地域住民、及び観光客の交流を図るとともに、地産地消の推進、地域の賑わい創出を目指した。

事業の内容

事業内容：

- 白河ふれあいマーケット@白河駅前イベント広場
- ・開催日：6/24, 7/22, 8/19, 9/16, 10/14
- ・出店数：19～24 店舗/回
- ・来場者数：800～1,000 人/回
- ・内容：県南地方の生産者等による青果物・加工品・苗木・切り花・手芸品・古着・特産品・飲食等の販売や、地域の団体によるステージイベントの開催

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	1,486 (1,453)	1,560	1,600
補助金	—	779	810	800

< 白河ふれあいマーケットの様子① >



< 白河ふれあいマーケットの様子② >



事業の成果・効果

- 前年を上回る出店数（前年 14～20 店舗）、来場者数（前年 500 人以上）があり、イベントの認知度向上と定着化が図られた。
- 出店者どうしコラボ商品企画や交流会の開催等を通じて、生産者間の交流促進にも寄与した。

今後の展開等

- 補助終了後の自立に向けた財源の確保。
- 出店者・来場者双方の増加を図るための環境整備と魅力的な企画の立案・実施。

(7)まるごと白河 2018

一般枠

継続 2 年目

【実施団体名】 まるごと白河実行委員会（白河市）

事業の目的

白河ラーメンや白河蕎麦といった伝統的食文化を始めとする白河市内の食や伝統文化等が一堂に会するイベントを開催。また、SNS を活用して白河市の主要な観光地である小峰城、南湖公園、白河関跡を含む、観光資源の魅力発信を行うことで、しらかわ（県南）地方への交流人口拡大及び観光誘客を図った。

事業の内容

- 事業内容：
- 白河魅力発信事業〈8/1～2/22〉
 - ・公式 Twitter を開設し白河市の魅力を発信
 - まるごと白河 2018@白河駅前イベント広場、白河市立図書館〈10/28〉
 - ・ステージイベントの実施 ・白河市内を中心とした飲食の提供
 - ・ラーメン・そば等の提供による地元の食の PR
 - ・ゲストシェフによる白河ブランドの魅力発信
 - ・地元企業や団体による PR、体験コーナー

総事業費：	(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	7,496	6,900	7,250	
補助金	—	3,240	2,636	3,000	

＜「まるごと白河」でのステージ PR＞



＜「まるごと白河」での体験コーナー＞



事業の成果・効果

- 「白河魅力発信事業」では、写真題材を観光資源や食文化に限定しなかったことにより、これまで周知されていなかった白河市の魅力の発信につながった。
- 「まるごと白河」では、20,000 人の来場があり大いににぎわったほか、世界一の称号を獲得したパスタ職人山田剛嗣氏と白河実業高校の生徒の交流会を実施した。

今後の展開等

- SNS による情報発信内容の工夫。
- 参加したいと思わせるような事業作り及び事業内容の幅広い周知。

（8）しらかわ地域文化継承事業

一般枠

継続2年目

【実施団体名】 白河まつり振興会（白河市）

事業の目的

昭和30年代から踊り継がれ、震災を機に復活を遂げた「白河関の踊り流し」に、市内の企業や団体、住民、学生等の幅広い層に参加を呼びかけ、練習会を行い、8月の関まつりで披露することで、地域コミュニティにおける絆づくり及び地域住民同士の交流を行った。

事業の内容

事業内容：

- 白河関まつり@小峰通り〈8/5〉
 - ・白河関の踊り流し 約1,200人参加
 - ・団体ごとの踊りの講習会の開催
 - ・戊辰戦争150周年記念事業として、県内外の伝統芸能の披露、白河踊りの実施
 - ・地元商店街等による夕市の開催

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	—	3,122	2,891 (2,888)	2,500
補助金	—	1,620	1,417	1,000

＜ 踊り流しの様子 ＞



＜ 白河踊りを踊る参加者 ＞



事業の成果・効果

- 踊り流し当日は、市内の団体・事業所から1,200人が参加し、踊りを披露した。
- 事前に練習会を行うことによって、参加企業・団体に対して「白河関の踊り流し」の文化の継承、講師との交流を行うことができた。
- 戊辰戦争150周年記念事業に合わせ、戊辰戦争時に山口県萩市に伝わった「白河踊り」を行うことで伝統文化の継承と地域活性化に寄与した。

今後の展開等

- 踊り流しに新たに参加する新規団体・事業所の確保。
- 首都圏をはじめとする、市外の住民を交えた文化交流の促進。

(9)ご当地アイドルによる県南地域活性化事業

一般枠

継続2年目

【実施団体名】 矢吹町バンド連合会（矢吹町）

事業の目的

県南地方のご当地アイドルを始め、県内外各地のご当地アイドルによる地域の魅力を発信するイベントの開催、SNS等による情報発信、昨年作成した通信紙の配布を通して県南地方を県内外へ広くPRするとともに、ご当地アイドルメンバーの目を通した本県の状況を伝えることで、震災による風評の払拭を図った。

事業の内容

- 事業内容：
- 地域イベントの開催（計5回）
 - ・しゅんらん春まつり〈4/22〉
 - ・Locodle Sonic!!〈7/1、1/20、2/24〉
 - ・東北フレンドパーク（クラウドファンディング活用）〈9/17〉
 - 県外での情報発信
 - ・首都圏での情報発信 計6日
 - ・他被災地との連携 計2日

総事業費：	(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)		—	1,852 (1,761)	1,986	2,000
補助金		—	841	943	930

＜ 東北フレンドパークの様子 ＞



＜ 首都圏での情報発信の様子 ＞



事業の成果・効果

- Locodle Sonic!!の来場者は延べ241人と目標を順調に達成した。
- 東北フレンドパークではクラウドファンディングを活用し、目標を上回る収益をあげたほか、500人の来場があり、県南地方の特産品を販売・PRした。
- 昨年度制作したパンフレットなどを引き続き利用し、県外のイベントにおいて県南地域を中心とした福島県の特産品のPRを行うことができた。

今後の展開等

- 集客方法を検討し、各メディアへの協力依頼の強化。
- 開催地の行政機関や商工会など、他団体との更なる連携。

(10)次世代によるローカルメディア創造事業

一般枠

継続3年目

【実施団体名】 次世代によるローカルメディア創造事業実行委員会（白河市）

事業の目的

震災から7年目を迎える県南地方の現状を県内外に広く発信し、震災による風評の払拭及び震災の記憶の風化を防ぐとともに、将来的に継続して本県の情報を対外に発信し続ける人材の育成を目的に、県南地方の高校生有志（裏庭編集部）がローカルジャーナリストとしてのスキルを実践的に学んだ。

事業の内容

- 事業内容：
- 裏庭編集部ミーティング・取材〈7～3月〉のべ27回
 - 県内TV局取材〈7～8月〉のべ5回
 - ファシリテーション講座〈8/15〉
 - アイデア出し講座〈10/13〉
 - 彦根東高校との交流〈10、12月〉
 - フリーペーパー「ヨリミチ」vol.2、3発行

総事業費：	(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)		1,167	1,054	1,577 (1,455)	—
補助金		756	700	969	—

＜ファシリテーション講座の様子＞



＜フリーペーパー「ヨリミチ」＞



事業の成果・効果

- ウェブサイトのページビューの1,000回超え（1,002回/月）
- マスメディア本社などが不在の県南地域の情報や、マスメディアがこれまで取り上げることができなかった情報を、ウェブ・フリーペーパーを通じて取り上げることができた。
- 取材や出版物の配布を通して、地域との連携を図ることができた。

今後の展開等

- 高校生の編集部員の確保。
- 白河市役所広報誌に新設される「裏庭」コーナーの執筆。

（11）ふくしまの「人と地域」の魅力発信事業

一般枠

継続3年目

事業の目的

県南地方の魅力の再発見、交流人口拡大及び若年層の移住・定住促進を目的に、路線バス専用道路「白棚線」等の地域の宝（地域資源）を活用したPRを実施した。また、事業参加者と地域住民の交流の場を設けることにより、地域の活性化を図った。

事業の内容

事業内容：

- カレンダープロジェクト（6～12月）
 - ・参加対象：地元住民、地元中高生、首都圏の写真愛好家団体等
 - ・地域の宝（名所、特産品、イベントの様子等）を紹介
 - ・県内外のイベントやアンテナショップ等で配布
- かかしまつり（撮影会、講演会、交流会）の開催（9/23・24）
- 白棚線沿線写真展@白河市2箇所、棚倉町1箇所
- 白棚線沿線情報紙「はくほ」の発行（夏7月、秋9月、冬12月、春3月）

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	1,124	1,160	1,576	—
補助金	740	671	1,017	—

＜ かかしまつり（講演会）の様子 ＞



＜ 情報誌「はくほ」 ＞



事業の成果・効果

- イベントには県外も含め、延べ120人が参加。
- 継続したPR活動が評価され、JRバス関東の、白河市・棚倉町で構成する地域活性化会議への出席につながった。
- カレンダーや情報誌の提供を周辺県域から首都圏まで範囲を広げると、評判で各地から問い合わせや郵送希望もあった。

今後の展開等

- 補助制度終了後に自立した活動ができるよう、協賛や寄付による財源の確保。
- 沿線写真展入賞作品を活用したカレンダーの販売。

（12）街なかカルチャー教室 未来の担い手育成事業

一般枠

継続 3 年目

【実施団体名】 街なかカルチャー教室実行委員会（白河市）

事業の目的

県南地方、栃木県及び茨城県等の住民を対象としたカルチャー教室を開催することで、県南地方の交流人口拡大を図るとともに、カルチャー教室の企画・実施希望者を募集し、カルチャー教室実施までのサポートを行うことにより、将来の地域づくりの担い手育成を目指した。

事業の内容

事業内容：

- 開催期間 〈春〉5～6月、〈夏〉7～9月、〈秋〉10～12月、〈冬〉1～3月
- 講座数 〈春〉21 〈夏〉28、〈秋〉28、〈冬〉23 合計100講座
- 参加者 〈春〉116、〈夏〉152人、〈秋〉158人、〈冬〉135人 合計561人
- フォトコンテスト 〈春〉58、〈夏〉40、〈秋〉20、〈冬〉21 合計139作品

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	624	677	881	—
補助金	395	394	485	—

＜ カルチャー教室の様子① ＞



＜ カルチャー教室の様子② ＞



事業の成果・効果

- 全100講座を実施し、561名が参加。参加者が中心市街地を訪れることで、回遊性や賑わいの創出につながった。
- 県南地域以外からの参加者もおり、取組みが広く認知されつつある。
- 講師として参加を希望する方もおり、地域づくりのプレイヤーの発掘に寄与している。
- フォトコンテストと連動した講座を設けるなど、内容の充実も図られた。

今後の展開等

- カルチャー教室の講師となれるプレイヤーの発掘の継続。
- チラシに頼らない広報の検討。

（13）農商工連携事業「しらかわ応援団プロジェクト」

一般枠

継続3年目

【実施団体名】 夢みなみ農業協同組合 青年連盟しらかわ地区（白河市）

事業の目的

白河商工会議所青年部と連携し、首都圏在住者を対象に白河市内で田植えや野菜の収穫といった農作業を体験し、生産者と交流することで、県産農産物の安全・安心をPRし、風評の払拭を図った。

＜ 田植え体験の様子 ＞



事業の内容

事業内容：

- 田植え体験〈5/27〉 参加者 15人
 - 野菜収穫体験、白河市内散策〈7/28・29〉 参加者 13人
 - 酒仕込み体験〈11/25〉 参加者 24人
 - 新酒お披露目会〈3/4〉 参加者 26人
 - 田んぼアート〈6～9月〉
- ※平成30年度は戊辰戦争150周年を記念した田んぼアートを制作。

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	3,280	3,513 (3,488)	2,797	—
補助金	2,185	1,627	1,537	—

＜ 制作した田んぼアート ＞



事業の成果・効果

- 首都圏等から36人がオーナーとして参加し、体験を通して農産物・商工物のPRを行った。
- 首都圏からの参加者がSNS（Twitterなど）で体験や農作物について情報を拡散し、PRの役割を担うことにつながった。
- 令和元年5月には、オーナーとして参加していた首都圏の元大学生の招きにより、首都圏で県南地方をPRするイベントに参加した。

今後の展開等

- マンネリ化によるオーナー参加人数の減少に対する、募集方法・開催内容の検討。

（14）全国から「しらかわ」に集まれ！元気なジュニアゴルファー育成プロジェクト

一般枠

【実施団体名】 全日本小学生ゴルフトーナメント in しらかわ実行委員会（矢吹町）

継続 3 年目

事業の目的

全国からゴルフが大好きな小学生を「しらかわ（県南地方）」に集め大会を開催することで、しらかわ地域と本県における風評の払拭及び地域の活性化を図るとともに、LPGA（日本女子プロゴルフ協会）との協力により、健全なジュニアゴルファーの育成を目指した。

事業の内容

事業内容：

- 第13回全日本小学生ゴルフトーナメント in しらかわ
 - ・日時：平成30年10月6日（土）～7日（日）
 - ・場所：矢吹町 矢吹ゴルフ倶楽部
 - ・参加人数：94人

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	11,489	14,352 (11,722)	14,382 (12,394)	—
補助金	7,000	7,000	7,000	—

＜プレーする選手＞



＜表彰式の様子＞



事業の成果・効果

- 大会 HP に大会前 3 か月間で 15,730 件のアクセスがあったほか、BS 日テレで大会の様子が放送されるなど、全国のジュニアゴルファーに県南地方を知ってもらうことができた。
- 主催者推薦枠として地元小学生も参加し、全国レベルの同世代と交流することで、育成の機運を盛り上げることができた。

今後の展開等

- 地区大会の充実。
- 市町村や商工会、教育委員会、ゴルフ場など関係者を巻き込んだジュニアゴルファー育成。

(15)うつくしま絆づくりプログラム

一般枠

継続 3 年目

【実施団体名】 うつくしま絆づくりプログラム実行委員会（矢吹町）

事業の目的

東日本大震災による県南地方への避難者の不安とストレスの緩和及び地域住民との交流促進を目的に、伝統文化をテーマとするアートスクールを開催したほか、県産農産物の払拭を目的に、首都圏の親子を対象とした体験ツアーを開催し、本県の魅力と県産農産物の安全性をPRした。

事業の内容

事業内容：

- アートスクール〈6月～3月〉
 - ・参加者：地域住民、避難者など のべ 398 人
 - ・教室：漆芸、陶芸、野焼き、子ども絵画ワークショップ 計 34 回
- おいしい矢吹まるごと体験親子で楽しむバスツアー〈9/2〉
 - ・参加者：首都圏在住の親子 21 人
- 地元産農産物と芸術を楽しむ会〈12/8〉
 - ・参加者：地域住民等 52 人

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	2,305	1,847	1,931 (1,766)	—
補助金	1,450	987	929	—

＜ 陶芸教室の様子 ＞



＜ バスツアーでの収穫体験 ＞



事業の成果・効果

- 作品展来場者を含む総参加者数は 683 人で、ほぼ順調に目標を達成し、芸術文化活動・地域活動を通し、震災による心身のストレスを緩和させることが出来た。
- 事業を協働で実施したことで、地域住民の絆を深める効果につながった。

今後の展開等

- アートスクール事業・風評払拭事業の継続実施。
- 地域づくり団体・避難住民と地域住民の交流や連携。
- 自主財源の確保による事業内容の充実化。

(16)横浜住民との双方向交流による産業活性化プロジェクト

一般枠

新規

【実施団体名】 矢祭町農業法人会（矢祭町）

事業の目的

これまで交流のなかった横浜市の住民に対し、矢祭町でのグリーンツーリズムや、横浜市での農産物販売等を通じて、横浜市民との双方向交流、矢祭町の首都圏での知名度向上、及び矢祭町産農産物の販路拡大を図った。

事業の内容

事業内容：

- 矢祭町におけるグリーンツーリズム
 - ・開催日：8/12～14
 - ・参加者：22人
- 横浜市内で「矢祭マルシェ」の実施
 - ・開催日：8～3月 毎月1回 計8回
 - ・来客数：平均178人

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	—	798 (781)	780
補助金	—	—	508	499

＜ 矢祭町でのグリーンツーリズム＞



＜ 横浜市での矢祭マルシェ ＞



事業の成果・効果

- 矢祭マルシェでは、平均178人の横浜市民が矢祭町産の農産物等を手取るなど、特産品のPRを図ることができた。
- 横浜市役所が本事業に関心を寄せてきて、横浜市内での売拡大に向けた気運が高まった。
- グリーンツーリズムを通して交流を行った参加者が、マルシェを手伝うなど関係人口が増加した。

今後の展開等

- マルシェを継続して行うことによる認知度の向上とファンの獲得。
- グリーンツーリズムの推進による交流人口の拡大。

(17) やまつき清流の里 ゆったり・ほっこり里山時間プロジェクト

一般枠

新規

【実施団体名】 やまつき清流の里協議会（矢祭町）

事業の目的

過疎化と高齢化が進む矢祭町内川地区において、視点の異なる人々とのふれあいを通じた地域住民の地域の価値・魅力・資源の再認識と地域の活性化を図るとともに、繰り返し内川地区を訪れてくれる地域のファンの獲得と将来的な移住につなげるため、首都圏在住者を対象とした体験型交流事業を実施した。

事業の内容

事業内容：

- 9/15 魚のつかみ取り体験 参加者 44 人
- 9/29 稲刈り体験 参加者 20 人
- 11/4 蒟蒻・えごま収穫、蒟蒻作り体験 参加者 23 人
- 2/16 餅つき、ヤマメ塩焼き体験 参加者 10 人
- 2/23 千葉県流山市での PR
- 3/17・18 大学生の農業体験、農泊 参加者 20 人
- 3/25 餅つき、春の山菜収穫体験 参加者 10 人 合計 127 人

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	—	1,924 (1,920)	2,400
補助金	—	—	1,200	1,000

< 魚のつかみ取り体験 >



< 稲刈り体験 >



事業の成果・効果

- 合計で 127 人の首都圏在住者が地域を訪れ、様々な自然体験をする事によって、独自の食文化や伝統の再認識につながった。
- 地元の農作物や商品を事業内で活用する事により、経済還元につながった。
- 事業を契機に地域内で 3 件の農泊の許可が下り、来訪者の受け入れ体制が進んだ。

今後の展開等

- 廃校活用における安全面・運営体制面の課題解決に向けた検討。
- バス会社と連携したパックツアーの事業構築。

(18)さめがわ・de・トワイライト

一般枠

新規

【実施団体名】 さめがわ・de・マルシェ実行委員会（鮫川村）

事業の目的

西洋文化のハロウィンに似た風習「お月見どろぼう」がある鮫川村において、地元の名物である土手カボチャを使用したハロウィンイベントを開催し、鮫川村の魅力・味覚・伝統を広くPRした。また、冬期間にはイルミネーションを設置し、鮫川村から見える星空と地上のイルミネーションをPRすることで、双方の相乗効果により、観光のオフシーズンにおける村への誘客を図った。

事業の内容

- 事業内容：
- ハロウィンイベント「さめがわ・de・ハロウィンナイト」
 - ・日時：平成30年10月27日
 - ・場所：手・まめ・館
 - ・来場者：700人
 - さめがわ・de・イルミネーション
 - ・期間：平成30年12月1日～平成31年2月28日
 - ・場所：手・まめ・館

総事業費：	(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)		—	—	867	—
補助金		—	—	649	—

< さめがわ・de・ハロウィンナイト① >



< さめがわ・de・ハロウィンナイト② >



事業の成果・効果

- 観光オフシーズンの手・まめ・館に700人が訪れ交流人口の拡大につながった。
- イベントでは特産の土手カボチャを使用したスープをふるまうなど、地元農産物のPRを図ることができた。

今後の展開等

- 来場者の防寒対策、施設設備の改善。
- キャンドルナイト中の十分な電源確保。
- 鹿角平観光牧場をはじめとする村内観光施設との連携した取り組み。

(19)小高ふれあいの森公園づくり

集落等活性化枠

継続2年目

【実施団体名】 埴町小高区（埴町）

事業の目的

世帯数が減少している埴町小高区において、地域の賑わいづくり及び交流人口拡大のため、地区の中心となる場所へ、住民はもとより地区外の住民との交流やイベントを開催できる公園づくりを実施した。

事業の内容

事業内容：

○平成28年度に作成した図面を基に、下記のとおり公園を整備した。

- ・東屋・パーゴラ建造
- ・遊歩道敷砂利・チップ敷設
- ・句碑の設置
- ・植木の植栽
- ・看板設置

※平成28年度は計画策定事業

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	242	993	933	—
補助金	241	992	930	—

< 整備した公園① >



< 整備した公園② >



事業の成果・効果

- 今年度実施した事業により、公園づくりが完成した。
- サポート事業によって大きく進展が開け、区民の意識・協調性の高揚が図れた。
- 小高地区に関心を持った他地区・町村の訪問客が増加した。
- 小高地区での事業取組を元に、他地区での事業への意識向上などの波及効果が生まれた。

今後の展開等

- 交流人口・集客を増やすための年間行事の立案・開催。
- 急勾配の斜面が多い故、安全面に留意した維持管理。

(20) 矢塚地区交流推進事業

集落等活性化枠

継続 3 年目

【実施団体名】 一般社団法人矢塚明日香塾（基町）

事業の目的

少子高齢化により地区の住民の7割以上が高齢者である基町矢塚地区の交流人口拡大と地域住民の生きがいづくりを目的に、地域住民の心のよりどころである矢塚分校（旧片貝小学校）、第1希望の森（分校裏）及び第2希望の森（からまつ峠）を整備・活用し、ミニサロン等を開催した。併せて、地区で採れる農産物を使用した矢塚ブランド品の商品化と販売先、販売方法等の検討を行い、地区のPRを行った。

事業の内容

事業内容：

- 希望の森の草刈り（7/1）
- 地区内外の高齢者を対象としたミニサロン（8月を除く毎月15日）
- ふるさとカフェ矢塚分校のPR（パンフレットの作成）
- 矢塚で採れた農作物の商品開発
- ウッドデッキ、寝袋等の備品整備

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	525	583 (578)	917 (913)	—
補助金	412	461	718	—

＜ミニサロンの様子＞



＜カフェの様子＞



事業の成果・効果

- ミニサロンは延べ72人の参加者があり、多くの高齢者が集う場となっている。
- 「ふるさとカフェ矢塚分校」はオープンから1周年を迎え、マスコミにも取り上げられた結果、週末の営業だけでも関わらず1,500人が訪れた。
- トマトジュースとパンを商品開発し、ふるさとカフェ矢塚分校や首都圏イベント等で販売するに至った。

今後の展開等

- 開発した商品の販売方法や販売先の開拓。
- 新たな事業展開の計画。
- カフェの充実化・県内外への情報発信。

(21)西郷村健康増進事業

健康枠

新規

【実施団体名】 西郷村

事業の目的

普段運動する習慣がない65歳以上の高齢者に対し、運動教室を通して、地域の老年者の運動機能向上およびコミュニケーションの場を設ける事で、情報交換や話し合いによる認知症予防の活動となり要介護等状態の予防および自立生活の助長を図った。

事業の内容

事業内容：

- シニア健康教室（地区に講師を派遣して指導を実施）
 - ・実施回数：52回
 - ・参加者：432人
- お元気運動教室（健康な高齢者が健康を維持するため）
 - ・実施回数：36回
 - ・参加者：258人
- いきいき教室（不健康な高齢者が要介護予防のため）
 - ・実施回数：40回
 - ・参加者：延べ328人

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	—	3,846	—
補助金	—	—	2,884	—

< いきいき教室 >



< お元気教室 >



事業の成果・効果

- 地域の介護予防への意識向上の効果が見られた。
- 参加者の70%以上に身体機能の維持・向上が見られた。

今後の展開等

- サポーター養成講座の開催。
- 新規地区でのリーダー発掘。

(22)お年寄り元気健康まちづくり事業

健康枠

新規

【実施団体名】 矢吹町

事業の目的

概ね50歳以上の住民を対象に「ことぶき大学（定期的に講座を開く）」に登録してもらい、近くの公民館等で健康体操などを通して「元気づくり」、「健康づくり」を実施することで、地域の人々の継続的な関係づくりの場を設け、地域づくりと参加者の心身の健康維持増進を図った。

事業の内容

事業内容：

- 高齢者のいきがいづくり（ことぶき大学）
 - ・実施回数：12回
 - ・参加者：延べ1,546人
- 登録者の興味に合わせた分科会
 - ・分科会数：12
 - ・実施回数：延べ188回
 - ・参加者：延べ2,235人

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	—	1,752	2,236
補助金	—	—	1,314	1,677

＜ことぶき大学①＞



＜ことぶき大学②＞



事業の成果・効果

○演芸発表会や音楽演奏会を実施する事で、練習や作品作りを通じた活動につながり、参加者の文化や教養の向上となった。

今後の展開等

○参加者増加につながるような講座内容の実施、交通手段の確保。

(23)はなわ健康づくり応援事業

健康枠

新規

【実施団体名】 埴町

事業の目的

地域住民を対象に一人一人が健康づくりを自分のこととしてとらえ、住み慣れた地域で健康で生き生き暮らせるまちづくりを進めるため、保健推進員の育成や講演会を実施するとともに、若者が健康づくりへの関心を持ってもらうためにホームページで情報発信を行った。

事業の内容

事業内容：

- ボランティアの保健推進員育成事業
 - ・養成人数：43人
- 健康づくり講演会
 - ・開催日：7/6
 - ・講師：荒川 泰行 医師（地元出身で東京在住）
 - ・聴講者：約200人
- ホームページの作成と健康情報の発信

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	—	1,969	—
補助金	—	—	1,475	—

< 健康づくり講演会 >



< 健康管理事業 >



事業の成果・効果

- 県民カードの発行数が前年度より増加した。
- 若年世代が情報を得やすくなるような活動を図ることができた。

今後の展開等

- 男性、女性関係なく参加できるような事業づくり。
- 周知方法の検討。
- 他機関との協力関係づくり。

(24)強く逞しくなろう！生きるとは食べること！

健康枠

新規

【実施団体名】 公益社団法人白河青年会議所 強く逞しいひとづくり委員会（白河市）

事業の目的

子ども達の情操教育・食育・健康増進を目的に、県南地方の小学生を対象に夏休みのキャンプ等を通じた自然体験や小学生同士の交流を行った。

<全体ミーティング>



事業の内容

事業内容：

- 心身の健康及びと野外活動に関する勉強会〈7/27〉
- 野外体験（キャンプ1泊2日）〈8/4～5〉
・参加者：72人
- 野外体験（芋煮会）〈11/11〉

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	—	—	935	1,117
補助金	—	—	610	730

<いわたのつかみ取り体験>



事業の成果・効果

- 県南地域で広く募集をかけ事業を行うことにより、少子化の時代の中で、学校や学年を越えた参加児童生徒同時の絆や友情を育む機会となった。
- 自然の中での体験を通じ、思考力・判断力・表現力・協調性・思いやりの心の育成や強く逞しいひとづくりができた。

今後の展開等

- 変化する時代の中で生きる子どもたちに、自然の中で体験できる科学技術体験や東京オリンピックで新たに加わったスポーツライミングを取り入れ興味を持てる事業にする。

(25)「しらかわの里山」魅力発信事業

健康枠

継続2年目

【実施団体名】 しらかわ里山ネット（白河市）

事業の目的

森林が持つ多面的な機能の活用を図り、里山整備を進め里山に多くの人を呼び込み「見て歩いて食べて」を体感して心身の健康と風評払拭、地域振興の一助となることを目指すとともに、県南各地の里山のネットワーク化を図る。

事業の内容

事業内容：

- 里山トレッキング及び写真教室
 - ・開催日：6/10、5/13 ・参加者：60人
- 里山スタンプラリー
 - ・開催期間：4月～6月
 - ・参加者：約1,300人、うち約120人が温泉施設利用
- 里山写真コンテスト
 - ・応募数：93点

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	863	1,015	1,101
補助金	—	574	676	734

< 写真教室 >



< 里山トレッキング >



事業の成果・効果

- 2年目になり、里山を訪れる人が増え、帰り道で白河ラーメンを食べたという声を多数聞くことができた。
- 昨年より東白川郡から2カ所増え、広域となったことにより、交流人口も増えた。

今後の展開等

- 東白川郡の里山でのイベントを多くし、東西の交流を増やす。
- 参加する里山を増やし、より広域的に活動する。

(26)健康体操・食育&コミュニケーション教室

健康枠

継続2年目

【実施団体名】 一般社団法人あんだんて（白河市）

事業の目的

県南地域に居住する高齢者等を対象に、身体を整える「健康体操」や「ヨガ」を行う教室を開催したほか、食の安全・安心を噛みしめながらコミュニケーションを行う「食育&コミュニケーション教室」を開催した。

事業の内容

事業内容：

- 体操教室
 - ・開催日：毎週水・金曜日 ・参加者：延べ 984 人
- 食育&コミュニケーション教室
 - ・開催日：毎週火・木曜日 ・参加者：延べ 655 人
- コミュニティ新聞作成
 - ・発行回数：7回 ・参加者：延べ 48 人

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	2,058	2,885	3,560
補助金	—	1,360	1,900	2,370

< 体操教室（ヨガ） >



< コミュニケーション教室 >



事業の成果・効果

- 個々で活動していた明るく前向きなシニア同士が、この事業をきっかけにつながった。

今後の展開等

- プログラムの内容を見直し、より多くの参加者を募る。
- 長時間滞在できる居場所としての機能を付加する。

(27)総合結婚支援復興事業

市町村枠

新規

【実施団体名】 「ふれあいの場」創出事業実行委員会（県南9市町村）

事業の目的

地域全体で結婚への意識改革を行い、福島の復興を担う人材確保・育成を図った。また、「結婚問題」を一つの地域だけでなく、広域的な範囲で出会いの場を創出し、独身者への結婚支援を行った。

事業の内容

事業内容：

- 結婚世話やき人セミナー〈6/24〉
 - ・参加者：24人 ・世話やき人委託：1人
- 企業間婚活「異業種交流会」〈11/18〉
 - ・参加者：31人
- 「出会いの場」創出イベント
 - ・開催日：7/28、9/29～30、2/16 ・参加者：延べ182人
 - ・カップル成立：28組

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	—	7,080 (7,067)	7,335
補助金	—	—	4,917	5,250

＜世話やき人セミナー＞



＜異業種交流会＞



事業の成果・効果

- 支援者の育成セミナーや企業への働きかけで、独身者のみならず地域全体で結婚問題に向き合うという意識を醸成できた。
- 4回のパーティーでは延べ218人の参加があり、28組のカップルが成立した。

今後の展開等

- 周知方法、内容に改善を加え、支援者の育成や企業の積極的参加につなげる。
- 過去のアンケートを基に参加者のニーズに対応したイベントにつなげる。

（28）しらかわ風評払拭・地域産業復興促進事業

市町村枠

継続3年目

【実施団体名】 白河市

事業の目的

震災・原発事故による風評被害を払拭し、地域産業の復興につなげるため、地域に新たな産業や連携を生み出す「新規創業」に向けた育成・支援を行った。また、首都圏での地元企業と連携した販路拡大や地元金融機関と連携した展示会・商談会で地元企業をPRした。

事業の内容

事業内容：

- 地元企業情報の提供、大学等でのPR活動
 - ・対象者：UIJ ターン希望者等
 - ・首都圏大学訪問数：16校（100校に資料を配布）
- 認定創業支援事業
 - ・創業応援塾（創業に必要な知識の取得）
実施回数：2回 創業者：3人 創業支援中：1人
 - ・コワーキングスペースの提供、伴走型創業支援 利用登録者数：5人

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	7,232	7,627	9,976	—
補助金	4,601	5,448	7,481	—

＜ ビジネスマッチ東北 ＞



＜ らくりでのイベント ＞



事業の成果・効果

- 「創業応援塾」をはじめとした創業支援により数多くの開業につながり、市街地活性化や雇用の創出に貢献した。
- コワーキングスペース（らくり）の提供により、5人が利用登録を行った。創業者同士や地域住民との交流が生まれ、創業気運の醸成やビジネスにおける人脈形成が図られた。

今後の展開等

- 国の施策と連携しながら、首都圏からの人材確保に努める。
- コワーキングスペース（らくり）を中心に更なる創業を推進する。

（29）西郷村復興推進環境整備事業～デマンド交通実証運行調査～

市町村枠

新規

【実施団体名】 西郷村

事業の目的

地元高齢者等交通弱者を対象に、地場産品の出品販売及び買い物の利便を高め、原発事故等で空洞化が加速した商店街の活性化など産業振興につなげるための調査、検討等を実施した。

事業の内容

事業内容：

- デマンド交通の運行に向けた実証運行調査
 - ・対象：村民
 - ・調査期間：1月～3月
 - ・利用登録：186人
- アンケート調査、実態調査の実施
 - ・実施期間：3月
 - ・回答：37人
- 課題の整理検討

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	—	3,390	—
補助金	—	—	2,540	—

< 協議会の様子 >



< デマンド交通用車両 >



事業の成果・効果

- 実証実験の結果、利用登録のあった186名の平均年齢は79.7歳であったが、28～93歳まで幅広い年代が利用するなど、幅広い年代で交通手段の確保に不安があったことがわかった。
- 利用者を対象に行ったアンケートでは、83.8%の利用者が実証運行に対し満足したという結果が示されるなど、公共交通に対する需要を把握するためのデータを収集することができた。

今後の展開等

- 現在は14時と16時の便を運行しているが、通院利用のために午前便を増便し、利便性の向上を図る。

（30）風評被害払拭に係る西郷村空家等対策計画策定事業

市町村枠

新規

【実施団体名】 西郷村

事業の目的

空き家バンク等を設置するとともに「安全で安心な西郷村」を村内外にアピールすることにより、新たな人材が空き家の改修を行い、事務所や店舗として活用する等、空き家を利用した創業支援を行う。

事業の内容

事業内容：

- 特定空家等判断基準及び特定空家等判断基準マニュアル作成
- 利活用判断基準及び利活用判断基準マニュアル作成
- 空家等対策審議会〈9/3、1/30、2/14、3/6〉

総事業費：

（千円）	H28	H29	H30	R1
事業費 （補助対象）	—	—	7,183 (7,176)	—
補助金	—	—	4,480	—

＜ 審議会の様子 1 ＞



＜ 審議会の様子 2 ＞



事業の成果・効果

○空家等対策協議会を設置できたので、村内外の有識者による空家等対策を協議する基盤をつくることができた。

今後の展開等

○どの空き家を観光施設や若い起業家の事務所として活用するかなどの判断材料とすることで空き家の有効活用、産業振興につなげたい。

(31)復興元気発信！やぶき体育祭り開催事業

市町村枠

新規

【実施団体名】 矢吹町

事業の目的

震災・原発事故による風評被害で減少した観光客を再び誘客するため、地元出身者ゆかりのソフトボール大会、マラソン大会をメインに各種体育大会を開催した。

事業の内容

事業内容：

- 野球・ソフトボールなど各種競技会を開催
 - ・開催日：8/25～11/25 ・種目数：10 種目 ・参加者：延べ 384 人
- 中畑清旗ソフトボール大会（中畑清アテネオリンピック出場記念）
 - ・開催日：8/4～5 ・参加者：99 チーム、1,980 人
- さわやか健康マラソン大会（千葉麻美北京オリンピック出場記念）
 - ・実施日：10/28 ・参加者：587 人

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	—	3,655	3,565
補助金	—	—	2,741	2,673

＜ 中畑清旗争奪ソフトボール大会 ＞



＜ やぶき健康マラソン ＞



事業の成果・効果

- ハイキングではより多くの町民が参加できるきっかけとなった。
- 中畑清旗争奪ソフトボール大会では県外からの参加チームが3チームあり、認知度アップになった。
- さわやか健康マラソンでは県内外の幼児から高齢者まで参加できる大会となった。

今後の展開等

- 各種競技会に若者がより参加できるよう種目の見直しや周知に力を入れたい。

(32)わくわく棚倉城食フェスタ

市町村枠

新規

【実施団体名】 棚倉町

事業の目的

戊辰戦争 150 年を契機にゆかりある棚倉城跡をメイン会場に、棚倉町の歴史・文化遺産を活用した観光 PR や地元特産品の販売、食に関するブースの設置など、町内外の方々にも楽しんでもらえるイベントを開催し、風評被害による減少した観光客の回復及び交流人口の拡大につなげた。

事業の内容

事業内容：

- わくわく棚倉城食フェスタ@棚倉城跡周辺〈11/4〉
 - ・来場者：10,000 人
 - ・内容
 - ①棚倉城跡を中心に、歴史文化遺産を活用した観光 PR
 - ②地元特産品等の PR
 - ③友好都市である川越市民との交流
 - ④町内を巡るスイーツウォーキングの実施

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	—	9,468	10,820
補助金	—	—	7,100	8,115

＜ステージイベント＞



＜会場の様子＞



事業の成果・効果

○約 10,000 人の来場者があり、地元のお米（わくわく社米）やフルーツ（ブルーベリー）を利用したイベントで多くの参加者し、地元の農産品の PR をできた。

今後の展開等

○棚倉城跡が国指定史跡の答申を受けたことで、町の歴史・文化遺産を活用した企画を考案する。

(33)里山と星空の魅力パワーアップ事業

市町村枠

新規

【実施団体名】 鮫川村

事業の目的

里山景観は、人の手が加わることによって、魅力が引き出されることを、大学生とともに体験し伝えることで、担い手の育成につなげた。また、星景写真やタイムラプス映像を SNS 等で投稿し、村の星景の魅力を世界中に発信した。

事業の内容

事業内容：

- 大学生等都市住民による農林業の体験
 - ・開催日：7/7～8、12/8～9 ・参加者：延べ 48 人
- シルバー人材センターを活用した里山整備
 - ・開催日：4/23～3/15 ・参加者：延べ 675 人
- 天文インストラクター養成講座の実施
 - ・開催日：7/6、9/7、10/10、11/3 ・参加者：延べ 35 人
- 星空写真撮影教室の実施
 - ・開催日：7/16～17、9/29～30、11/10～11 ・参加者：延べ 19 人

総事業費：

(千円)	H28	H29	H30	R1
事業費 (補助対象)	—	—	8,427	8,900
補助金	—	—	6,741	7,120

< 里山景観形成実践事業 >



< 星景写真撮影教室 >



事業の成果・効果

- 助っ人体験事業では草刈り体験、雑木伐採、炭焼き体験等を通じ、村の PR ができた。
- 星空写真の講師や PR 映像の制作者は、各地で活躍されており、村の星空の美しさを知ってもらった。

今後の展開等

- タイムラプス映像は、本州初の 8K 映像（シネマスコープ 8K）で発信する。